

りんご褐斑病の基準圃場では例年より早い6月第2半旬に初発生が確認され、発病葉率は平年より高く推移しています。前年発生園では、防除を徹底しましょう。

### 現在の状況

- 1 基準圃場（北上市成田、ふじ）では、例年より早い6月第2半旬に初発生が確認され（写真1）、6月第5半旬時点の発病葉率は4.0%（平年0.2%）で平年より高い（図1）。
- 2 前年収穫期の発生圃場率は74.2%（平年52.3%）で平年よりも高く、伝染源密度が高いと考えられる。

### 防除対策

- 1 前年発生園では、二次伝染防止のため7月上旬にパスポート顆粒水和剤を選択する。
- 2 前年多発園では、上記1に加え、7月中旬にトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。  
ただし、ラビライト水和剤を既に使用した場合には、耐性菌対策のためにユニックス顆粒水和剤47を用いる。
- 3 秋期まで、本病に効果のある薬剤で定期防除を行い、降雨前の薬剤散布を心がける。
- 4 散布むらが発生要因となるので、樹全体に十分薬液が付着するよう心がける。



写真1 褐斑病の初期病斑  
(褐色斑点中央部の黒点が特徴)

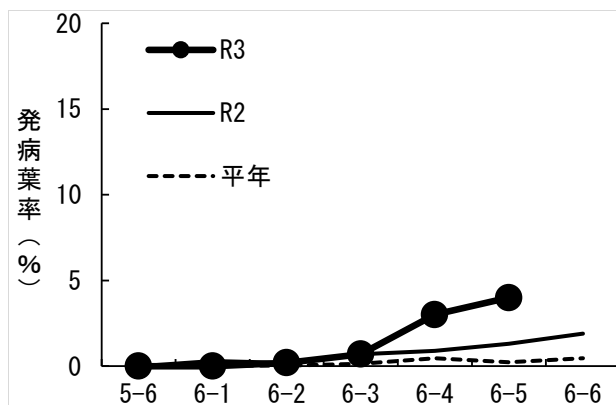


図1 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移（ふじ、新梢葉、無防除）

### ☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

#### 【利用上の注意】

本資料は、令和3年6月9日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

